

# 参院選の全議席確定

自民	公明	民主	共産	社民	諸派	無所属
49	11	50	4	2	0	5

# 自民敗北、民主50議席

第二十回参院選の全議席が十二日未明、確定した。自民党は四十九議席にとどまり、勝敗ラインの改選五十一(欠員含む)を確保できず敗北、与党でも改選過半数(六十一)割れした。民主党は、改選三十八議席から大躍進、五十を獲得して自民を上回って改選第一党となった。公明党は改選の十から十一、共産党は十五から四、社民党は改選維持の二となり、「二大政党」の流れが加速した。



テレビ局の中継で質問に答える小泉首相。11日夜、東京・永田町の自民党本部

自公両党は非改選と合わせ、参院の安定多数(百二十九)を占めたとして、小泉純一郎首相の続投を確認したが、二大争点となった年金、イラク多国籍軍への自衛隊参加問題、小泉首相の政治手法への批判が直撃した形で、首相の求心力低下は避けられず、政権運営が厳しさを増すのは確実だ。

総務省発表の最終確定投票率は、選挙区で五六・五七%と二〇〇一年の前回並みだった。

比例代表の各党獲得議席は、民主十九、自民十五、公明八、共産四、社民二。民主は昨年衆院選に続き、「比例第一党」となった。自民の竹中平蔵経済財政担当相、民主の白真勲・元朝鮮日報日本支社長、公明の浜四津敏子代表代行、社民の福島瑞穂党首らが知名度

を生かし当選した。選挙戦全体の勝敗の鍵を握ったのは、二十七の一人区。自民、民主両党が互角の戦いを演じ、自民は秋田、滋賀、奈良、高知、長崎、大分の各選挙区で議席を守れず、十四勝十三敗に終わった。群馬でも一議席を落とした。

一方、民主はこれまで弱いとされていた東北、四国、九州地方の一人区でも推薦を含めて議席を獲得、全国で十五ある二人区で、自民と分け合った。さらに、自民が一人しか擁立しなかった三、四人区の東京、神奈川県、愛知で二人当選を果たした。秋田、高知、沖縄は民主、社民両党などが推薦した無所属が勝った。

公明は埼玉、東京、大阪の三選挙区で議席を確保。共産、社民両党は選挙区での獲得議席がなく、無所属の鈴木宗男、辻元清美両元衆院議員は落選した。